

平成21年 6月 20日現在

研究種目：若手研究(B)
 研究期間：2006～2008
 課題番号：18720054
 研究課題名(和文) 関西文壇・出版研究—中央文壇と海外文学との横断的関連—
 研究課題名(英文) Reserch of kansai literary world and publication —mutual influence relation to overseas literature—
 研究代表者
 増田 周子(MASUDA CHIKAKO)
 関西大学・文学部・教授
 研究者番号：30294664

研究成果の概要：

近現代の関西文壇や出版の状況は、まだ全貌が分からないことが多い。本研究では、関西の出版や文壇の状況を把握することを目的とし、海外文壇が関西の作家や出版状況に与えた相互影響関係や、関西の作家と中央文壇(東京)とのつながりについて研究した。

明治、大正、昭和期における関西文壇や関西の出版文化が、どのような文化的背景の中で生まれ、東京などの中央文壇や、海外の文学状況と相互に関わりながら、成立し、発展していったのかを調査研究した。関西の作家は、東京の文壇にも進出し、多大な影響を及ぼした。また、海外の中でも、本研究では、とりわけ中国、台湾における関西の作家の役割が一部明らかとなったことは成果といえる。

交付額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2006年度	1200,000	0	1200,000
2007年度	500,000	0	500,000
2008年度	700,000	210,000	910,000
年度			
年度			
総計	2,400,000	210,000	2,610,000

研究分野：文学

科研費の分科・細目：日本文学

キーワード：関西・文壇・作家・文学・海外

1. 研究開始当初の背景

関西の文壇・出版研究は遅れている。『日本近代文学大事典』(講談社)の第5巻「新聞・

雑誌」編にも関西の雑誌が余りとられていない。これまでの、先行の研究者は、関西の出版メディアなどに注目してこなかったので

ある。関西は新聞文化の発祥の地で、明治期には関西で文学活動を起こそうという動きがあった。また、大阪がモダニズム時代には一時的にはあるが、大大阪といわれる、東京を経済的にも、文化的にも超えた時期が短期間ではあったものの見られた。昭和期にも、同様に関西文壇が威力を発揮した時期があった。東京での過度な言論弾圧により、東京に本拠を持つ文藝雑誌が廃刊される中で、大阪で、存続し続けた文藝雑誌『新文学』（全国書房）などもあった。そのような、関西での状況は、ほとんど知られてないのが現状である。関西で生まれ、活躍した作家は、数多い。例えば、川端康成、与謝野晶子、宇野浩二などは、関西で育ったが、東京に進出し、日本文壇や、海外文壇に多大な貢献をした作家達である。織田作之助は、関西で生まれ、東京と関西の学校に通い、中央文壇と関西文壇との密接な関係を横断的に取り持った作家の一人である。

しかし、東京の文壇と関西文壇、海外との関連の中での、関西文壇や、出版の研究はこれまで、ほとんどなされてこなかったのが現状である。

2. 研究の目的

本研究は、これまでの先行の研究者が注目してこなかった、関西の文壇・出版研究を、中央文壇との関係、また、海外文学との関連性の中で研究していくことを目的とした。抽象的ではばやけた、関西文壇と海外や、東京文壇の横断的關係を、より具体的に研究するこ

とを考えた。そこで、可能な限り関西で発刊された雑誌を集めることを心掛け、それを検討することによって判明した新資料を紹介したり、新発見を広く学会内外に周知することにつとめた。

その上で、関西の文学者が、海外や東京で果たした役割や、海外の出版文化にどのように相互に影響を及ぼしあったか。そして、海外の文学が関西文壇にどのように受容されていったのかを研究することを目的とした。

研究の成果は、国内外の日本近代文学、文化研究者に公開することにし、世界的な視野で研究を行うようにした。海外の研究者にも日本文学が、いかにグローバルなものであったかを知って貰うことを目的とした。

3. 研究の方法

具体的で、実証的な研究を行い、研究の方法には、創意工夫をした。関西の作家の未発表の書翰や、未公開雑誌などを数多く集め、それを調査・発表するよって、新たな関西の文学運動の諸相を研究するという方法をとった。そのために、多くの文学館を訪れ、資料収集を精力的に行った。特に海外の文学との関連性においては、中国や台湾などの東アジア地域に力を入れた。利用した図書館は、関西大学総合図書館、日本近代文学館、神奈川近代文学館、福岡市立総合図書館、中国山東省博物館、国立国会図書館などである。それらの文学館施設を利用して、多くの資料を収集し、関西の作家を中心とした日中文化交流の諸相や意義についても研究した。また、海外の文学との関連を調査研究するために、中

国の日本文学研究者や台湾の大学の研究者とも交流を持ち、インタビューを繰り返した。交流や調査のために、積極的に海外や日本で開催される、国際シンポジウムにも参加し、知見を広めていった。文学は、宗教、芸術、歴史など多くの学術とも関連を持っているので、国内外の歴史研究者、宗教学者、美術・芸術学者などとも交流し、本研究に生かすことができた。また、出来るだけ海外の研究者にも、本研究の研究成果を、読み、知って貰うために、日本語だけでなく、海外の言語でも公開することとした。そのため、本研究であげた成果は、まだ、刊行されてはいないが、一部、中国語や台湾語で翻訳を依頼し、海外の学術雑誌に発表している。

4. 研究成果

研究成果として、関西の作家と東京文壇との関わりがかなり明らかになった。海外との関連性では、関西の作家が、中国や台湾にも影響をもたらしていたことが判明した。具体的には次のような研究成果である。

まず、明治期から大正期に世界から受容され、日本でも流行した大阪のカフェ文化と文藝運動の諸相を研究した。モダニズム文化の時代に、大阪のカフェは、文学者、美術家、音楽家らの文化的サロンとなり、そこから、多くの有名な雑誌が発刊されたり、文藝講演会などの研究会などの芸術文化運動が引き起こされたのであった。

また、海外との関わりの中では次のような研究を行った。

大阪作家の一人である佐藤愛子の中間小説「スニヨン的一生」をとりあげ、第二次世界

大戦中に、台湾人でありながら、日本兵として戦い、戦争が終わってもそれを知らず、長期間密林をさまよっていた、実在の人物を描いた作品を研究した。

中華人民共和国成立期における日中文化交流の意義を、第一回「中国訪問日本文学代表」の交流を中心としてとして考察した。関西出身で、関西文壇にも中央文壇にも多大な影響をもたらした作家宇野浩二は、東京文壇の大御所である久保田万太郎、青野季吉らやカメラマンと共に、1956年に新中国を訪問し、『東京新聞』に「新中国見聞記」を連載した。郭沫若や陽翰笙ら中国の文化人らとも交流し、郭沫若の私邸に呼ばれるなど、親交を深めたことも分かった。この、宇野浩二らの中国訪問は、1956年の、文芸上の注目すべき話題として、『文芸年鑑』(1957年)にも大きく取りあげられ、写真付きで紹介された。

いずれも、日本文学と海外の文学との横断的関係を研究したもので、関西の作家が大きな成果をあげることができた。

その他、浅草生まれで、戦後詩文壇を引っ張った関根弘と、関西出身の作家野間宏との「狼論争」という詩の論争をとりあげ、関西文壇と東京文壇の思想的相違や、戦後の文壇の混乱の動向を研究した。特に、関根弘は、多くの詩雑誌の編集に携わっていたので、詩雑誌の出版文化研究の一助となる研究成果をあげることができた。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕（計 4 件）

- ① 増田周子 宇野浩二未発表二十四通一丸山順太郎宛書簡宛書簡一通・嶋中雄作宛一通・田中直樹宛一通・早稲田文学社宛二通・尾崎一雄五通・浅見淵宛一通・中山義秀宛十一通・武者小路実篤宛一通・尾崎一雄記念会世話人宛一通 関西大学『文学論集』 57 巻 1-20 2007 年 査読無
- ② 増田周子 大阪の雑誌—主として『大阪文学』について
『大阪春秋』第 35 巻 3 号 58-65 2007 年 査読無
- ③ 増田周子 中華人民共和国成立期における日中文化交流の意義—第一回「中国訪問日本文学代表」の交流を中心として—
『アジア文化交流研究』 第 4 号 135-149 2009 年 査読無
- ④ 増田周子 台湾人日本兵を描いた作品—佐藤愛子『スニヨンの一生』—
『2008 海洋文化国際学術検討会・論文集』 821—836 2008 年 査読無

〔学会発表〕（計 2 件）

- ① 増田周子 「民謡概念の移入、展開、変容—台湾の民謡運動を中心に—」国際日本文化研究センター 第 35 回国際研究集会 2008 年 11 月 19 日
- ② 増田周子 台湾人日本兵を描いた作品—佐藤愛子『スニヨンの一生』—
2008 海洋文化国際学術研究会, 国立台湾海洋大学 2008 年 11 月 7 日

〔図書〕（計 3 件）

- ① 増田周子 大阪におけるカフェ文化と文藝運動『関西モダニズム再考』思文閣出版 222-244 2007 年 査読有
- ② 増田周子 宇野浩二 関口安義編『アプローチ児童文学』翰林書房 144-147 2007 年 査読無
- ③ 増田周子 関根弘 和田博文編『戦後詩のポエティクス 1935-1959』世界思想社 196-214

〔その他〕

講演会

増田周子 宮本輝文学を語る 2008 年 3 月 22 日 朝日新聞社・柿衛文庫・伊丹市共催 伊丹市文化ホール

6. 研究組織

(1) 研究代表者

増田 周子 (MASUDA CHIKAKO)
関西大学・文学部・教授
研究者番号：30294664